

そすいさんぽ

CANAL WALK

疏水分線コース Branch Canal Course



琵琶湖疏水
LAKE BIWA CANAL

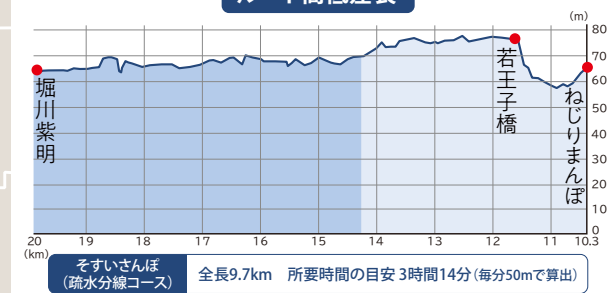


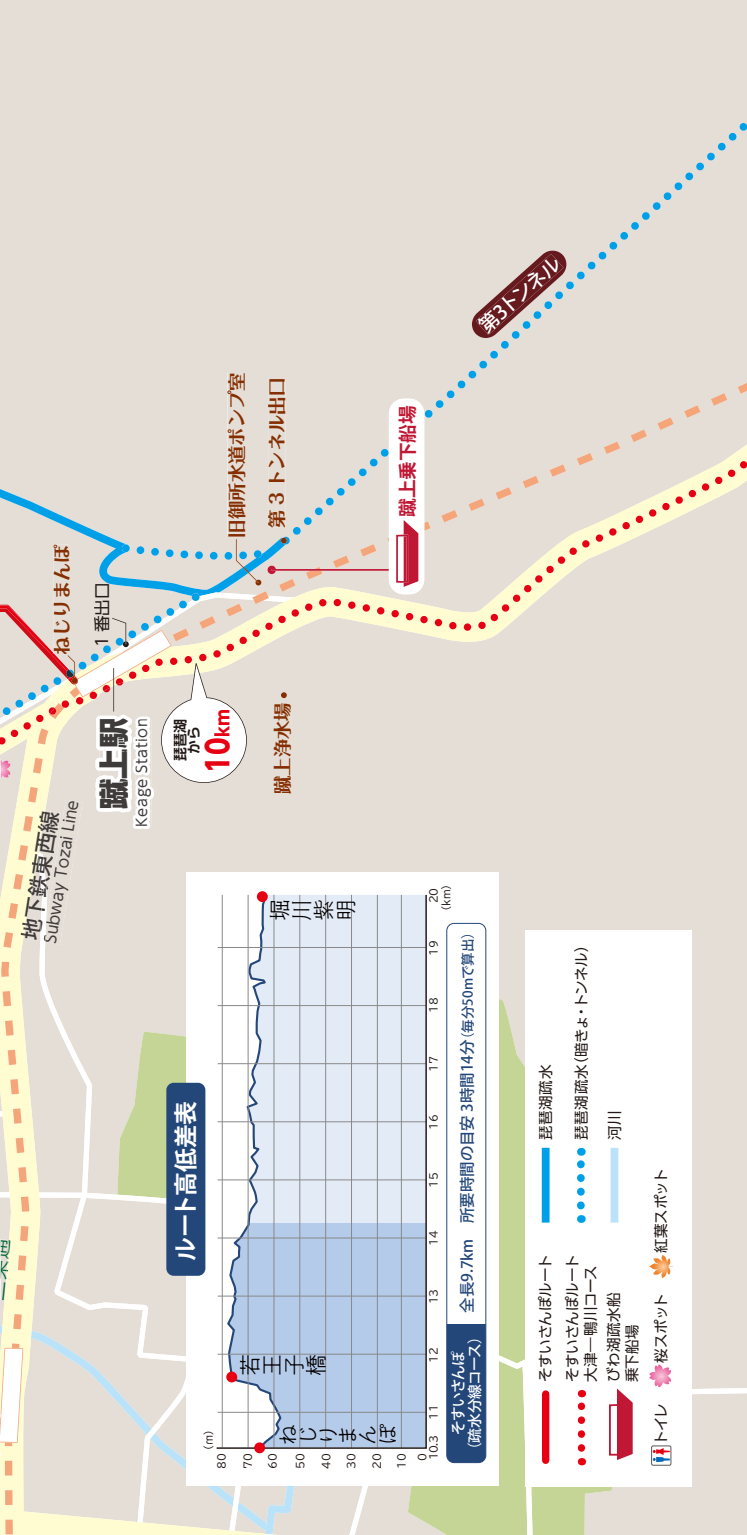
そすいさんぽ全コース概略図

「そすいさんぽ」には、琵琶湖疏水を巡る3コースがあります。各コースに、琵琶湖からの距離を示す、約1キロごとのサイン*が設置されています。
※サインには、電柱やフェンスへの掲示も含まれます。



ルート高低差表





column

① 南禅寺界隈別荘群

南禅寺の塔頭跡地に、近代最高峰の作庭家七代目小川治兵衛(植治)の活躍もあり、疏水の水を利用した近代庭園群が形成されました。山縣有朋の別邸である無鄰菴や平安神宮の神苑などがあります。



無鄰菴

©植柳加藤造園

② 水路閣

名刹・南禅寺の境内にかかるとアーチ型の水路橋で、明治21(1888)年に完成しました。蹴上から若王子へ水路を通すに当たり、田邊朔郎が地形や景観を考慮して設計したものです。橋上からは疏水の流れを直に見ることができます(国史跡)。



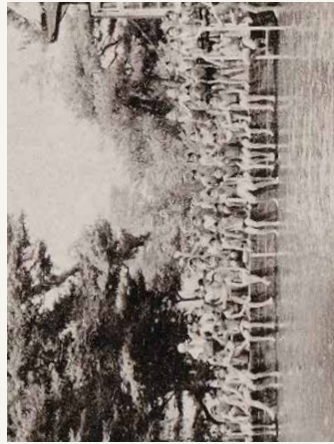
③ 扇ダム

第5トンネルと第6トンネルの間にある「扇ダム」。主にここから南禅寺界隈別荘の庭園群に引水され、防火用として水利用の申請を受けています。
※一般の方は立入りできません。



④ 旧若王子プール

琵琶湖疏水のユニークな活用方法としてプールがありました。昭和40年代までは、市内小学校にプールはなく、水泳の授業は、豊富な水量がある疏水を活用した若王子プール、南禅寺プール、裏川船溜などで行われていました。



⑤ 真如堂の石灯籠

真如堂の元三大師堂の前にある「工学博士田邊朔郎君頌徳記念」と刻まれた石灯籠です。疏水のおかげで水不足に困らなくなったお礼として、白川村(当時)の村長が奉納しました。

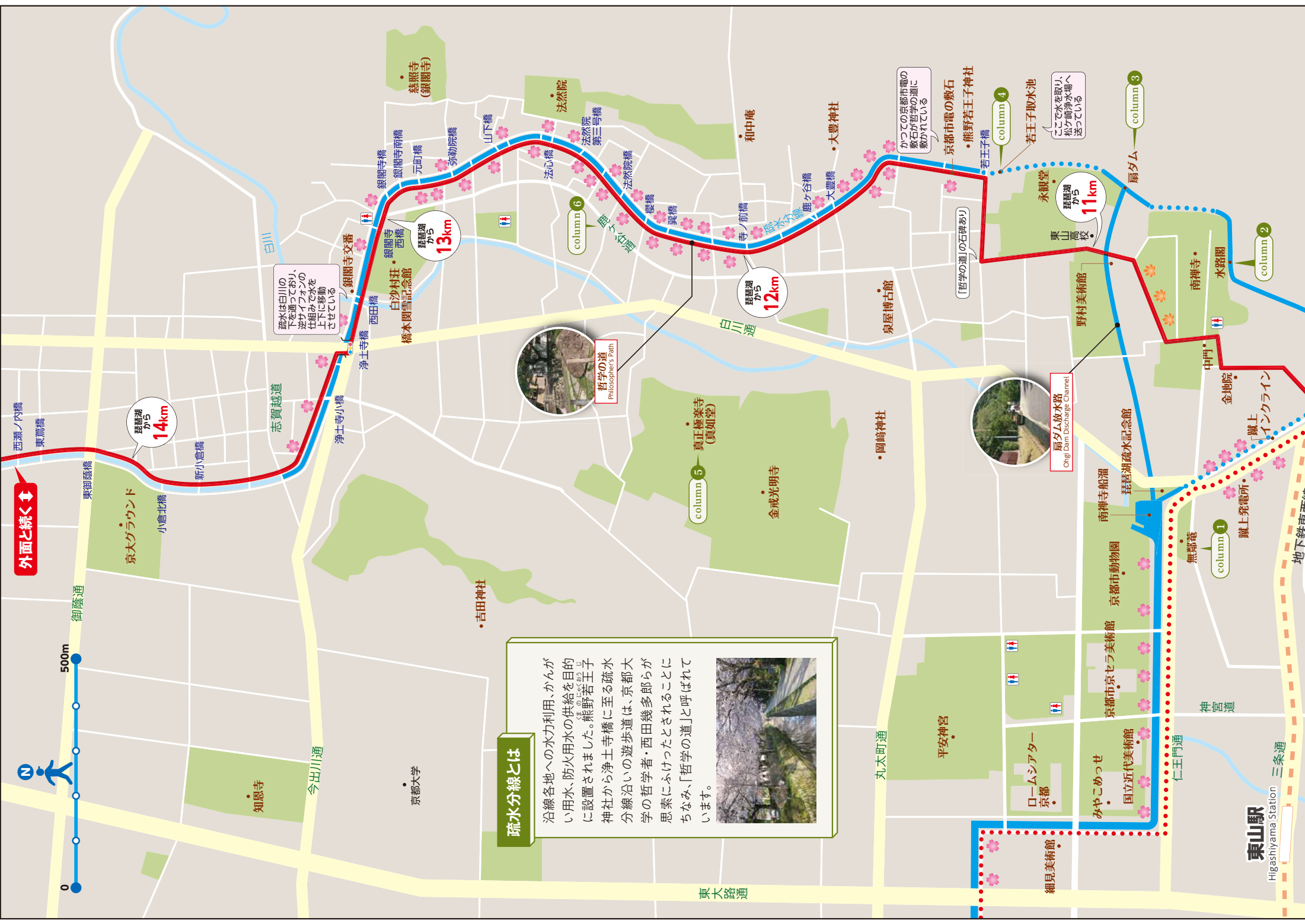


⑥ 幻の工業都市計画

北垣国道知事は、疏水の水で水車を回して工業機械の動力に利用するため、鹿ヶ谷・哲学の周辺に工業地帯の整備を考えました。しかし、整備工事には多額の経費が掛かり、また水力発電所の建設計画が持ち上がったため、水車による工業都市計画は実現しませんでした。



琵琶湖疏水線路インクライン以西至鴨川平面図(明治20年頃)「田邊家資料」。南禅寺北側などの土地に朱筆で「工場敷地」と記されている。



外面と続く

嵐山湖から
14km

嵐山湖から
13km

嵐山湖から
12km

嵐山湖から
11km

疏水分線とは

沿線各地への水力利用、かんがい用水、防火用水の供給を目的に設置されました。熊野若王子神社から浄土寺橋に至る疏水分線沿いの遊歩道は、京都大学の哲学者・西田幾多郎が思索にふけたとされ、こにちなみ、「哲学の道」と呼ばれています。



哲学の道
Philosopher's Path

扇ダム放水路
Ongi Dam Discharge Channel

東山駅
Higashiyama Station